

もくじ

表紙	注意点 4輪車の各部の名称	5頁	調整下半身 後ろ足レッグリング 足袋
1頁	基本調整 装着方法	6頁	よくある質問 問題への対策
2頁	使い方	7頁	よくある質問 問題への対策
3頁	練習方法	8頁	車椅子のアイデア
4頁	調整上半身 ハーネスとフックの位置 前足用レッグリング 胸下ベルト 顔乗せバーとクッション 腹下の補強バー	裏表紙	もくじ 車椅子の注意点

車椅子の注意点

●本体は

硬質塩化ビニール素材（塩ビ・プラスチックの一種）を使用している為熱で変形するおそれがあります。ストーブの近くや炎天下の車中などに保管しないでください

※シャンプーOK ドライヤーNG

●フックは

消耗品

フックは消耗品なのですり減り外れる事があります
短期間で壊れる場合はバランスに問題がある場合もあります
※強度の高いものに交換できます

●タイヤ交換は

消耗品

タイヤは消耗品なのですり減ります
山が減ってきたり外側から2本目の線が消えたら交換します



車軸に潤滑油不要

後輪タイヤ車軸に注油は不要の部材
前輪キャスターには「グリス」が塗ってあるので前輪後輪共に「機械油」は注さないでください

※ 車椅子が不要になった場合はご連絡ください、
他の犬に譲るときサイズが合わない車椅子を使用することで、
相手の犬の体に負担をかけて症状を悪化させてしまうことがあります

犬の車椅子のわんわーく

mail wanwalk123@yahoo.co.jp
〒289-1214 千葉県山武市森279-47 TEL 0475-53-3629

今後の参考のため、ご意見、改善点などお気づきの点がございましたらぜひご連絡ください

4輪車椅子 説明書



2020/4改

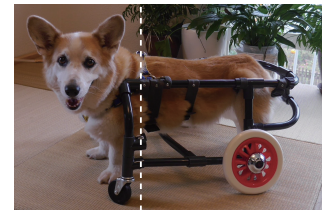
- ★表紙～3頁は ● 発送お渡しの場合、（正面、真横、真上、真後、ブログに載せる可愛い写真）
最初に 確認の為に必ず乗せた写真をメールで送ってください
必ず ○ 調整次第で体を痛めることがあります説明書は必ずお読みください
お読み ○ 体調など様子を見ながら飼い主様の判断で乗せてください
ください ○ その他の調整はホームページの↓お客様専用ページを参照ください
http://wanwalk123.sakura.ne.jp/wp/?page_id=570

基本調整は

軽いサポートで大丈夫なわんこ～完全寝たきりのわんこ すべてのわんこ

★ 元気だった頃に近い体勢にします

- ・若いころの写真でや同じ犬種の図鑑を参照してください 前足のすぐ後ろに1本目のベルトがきます
- ・すでに体勢が崩れている場合も 前足用レッグリングや顔乗せバー+クッションなど使って可能な限り正しい体勢にしてください
- ・寝たきりの場合でも体勢は作れます ※ 無理に正すと骨折などの恐れもあるのでご注意ください
- ・動きにくそうなときは そこから今動きやすい体勢に崩れていきます



■ チェックポイント

□ 背中ラインと高さ

・背中は横から見ても上から見てもまっすぐにします

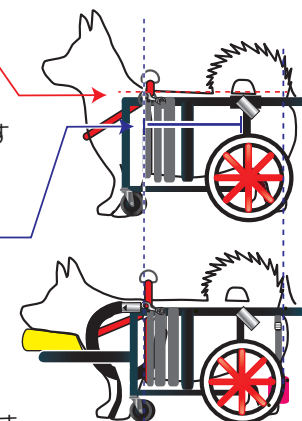
- ◆調整は 胸下ベルトと後ろ足レッグリングを使います
- ・前足は地面に対して垂直になるように調整します
※前足は筋力を使いまっすぐ立っている状態にする
※ 過剰なサポートは筋力を落とします

□ 前後位置 （青い線は採寸⑦の胸の長さ）

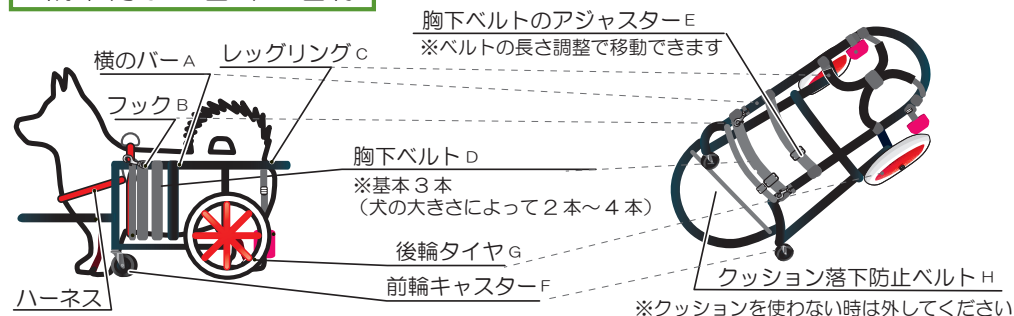
- ・前足のすぐ後ろに1本目のベルトがきます
後ろ足の股部分がバックルの先端付近です

□ 胸の前の調整 step1～3 ・ 調整は4頁参照

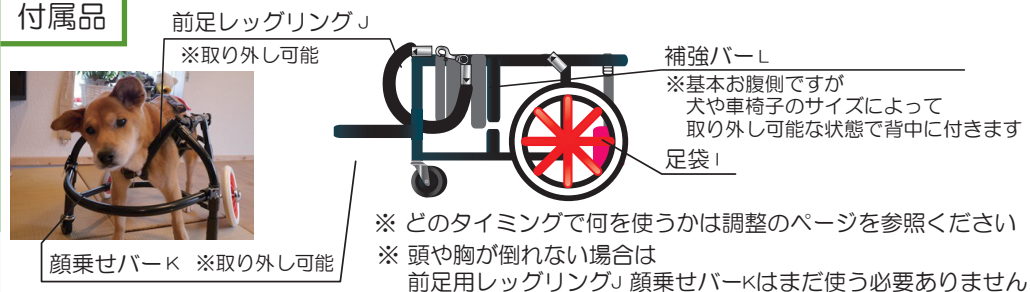
- ・真っすぐ立っている子はハーネスだけで大丈夫です
※ お渡し時についている前足用レッグリングは外してください
- ・頭が下がったり胸が前に倒れる場合 前足用レッグリングを使ってください
ハーネスにフックは留めなくても問題ないです
※ハーネスは乗り降りの時や体勢を直す時に使います
- ・頭が落ちる場合は 顔乗せバー+クッションを使ってください
フセをしているくらいの角度にしてください



4輪車椅子の各部の名称



付属品



◆装着方法

① ハーネスを犬に装着する

※ハーネスは 胸の前が短い状態で装着します

② ワンちゃんを抱っこして
後ろ足レッグリングに足を通します

- ※ 足が入りにくい場合はレッグリングのバックルを外して
胸を胸下ベルトに乗せた後に後ろ足のバックルを留めます
- ※ 後ろ足のバックルはパイプと体の間を通して上から下に
向かって留めてください (パイプにも体重がかかります)
- ※ 暴れる場合は抱っこして落ち着くまで少し待ってください
- ※ 後ろ足がクロスになる場合
お尻の後ろから股の間を支えて手のひらを広げると足の間があきます



抱っこは 片手は肋骨の下 片手はお尻の後ろから股の間を支えると乗せやすいです

③前足を胸下ベルトの前方におろしてハーネスにフックを留めます

- ※ グレーのベルトは全て胸の下になります
- ※ 前足用レッグリングがある場合は
レッグリングの中に足を通すか
犬を下ろしてから肩側のバックルをとめてください



車椅子から下ろす時はハーネスを持ち上げて手を肋骨の下に入れてください

使いかた

つけ方・調整は4ページ目から各項目・体勢は表紙の **基本調整** を参照ください

- ◆わんこの状態によって付属品を使いサポートを変えられます
状態が悪くなる前に・体勢が崩れる前に調整・対策をしてください
先手を打てると衰えにくい体が作れます

- 体の上下の調整 → 胸下ベルトA
- 体が前に落ちない為 → 前足用レッグリングJ
- 頭を下げない為 → 顔乗せバーK+クッション と用途が異なります

Step1 ハーネスのみ

対象 お腹さえ支えればすいすい歩ける場合

調整 ハーネスと胸下ベルトの調整だけ

- ※前足用レッグリングと顔乗せバーは外してください
- ※ハーネスは正しく付けるとトラブルは減ります
- ※ハーネスを付けるのが面倒な場合
 - ・前足はハーネスに通さず、ハーネスの胸前と背中中のバックルだけ留めてください
 - ・車椅子の中で体が左右にふれやすくなります
- 対策は 体の横にクッションを入れて体が左右に動くのを防いでください

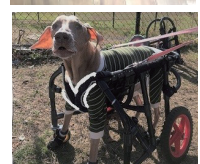
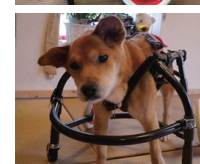


Step2 前足用レッグリング使用

対象 前足を擦り始めたり(ナックリング)
胸が前に倒れこむ・胸前を支えたい場合

調整 胸下ベルトと胸下ベルトで調整

- ※ハーネスは乗り降りや体勢を直す時に使用
顔乗せバーは外してください
- ※中央のグレーベルトの高さ(位置)が重要です
- ※体が横にぶれる場合は
肩～肋骨の横にタオルを挟んでください



Step3 顔乗せバー使用

対象 顔が下がる・顔を支えると安定する場合

調整 胸下ベルトと胸下ベルトで調整

- ※ハーネスは乗り降りや体勢を直す時に使用
- ※鼻先がつぶれる場合
顔乗せカバーを外し腹巻状の物に変えてください
(自着包帯を巻くのもOK)



Step4

前足を引きずる場合 ・市販の靴下を履かせたり 前足用足袋をつける 7頁参照

練習

4輪車はいろいろな段階の子がいますので、調整を確認しながらいくつかの練習も試してスムーズに足を運べる、自信を持てる練習をしてください

できることから練習を始めて自信をつけていってください

最初は遠くから呼ばずに（人間の子供の）初めての自転車のように少しずつ練習をします

使いはじめの練習

- ◆成功体験を多くして自信をつける（歩きにくいならリードで引く、フードは届く距離から徐々に離す）
- ◆車椅子を好きなものにするため、ワンちゃんの意欲をあげて行います。
- ◆最初は緊張もあるので（違和感を減らすために）後ろ脚は足袋から下ろしてください
※アスファルトなどでは足袋に入れて浮かせてください
- ◆車椅子以外に意識を向けるようにします
オヤツ・おもちゃ・他のワンコなど、他に興味のあるものを見せて車椅子を着けていてる事を忘れて「あっちに行きたい！」と思わせることが大切です。
※嫌いなものを追わせる場合もあります(˘_˘)
- ◆動きにくい場合は人が車椅子を動かし足を動かす動く練習をします
- ◆1人で動けることだけが良いわけではありません
負担のない体勢で歩けるためにリードで引いて前への推進力を助けてスムーズに足を運び、筋力強化をしていけるようにしてください
（勢いで動いていると骨格や体に負担をかけていきます）



全体が動く

- 部屋の端にワンコを連れて行き、少し離れて呼ぶ
※わんこの筋力や意欲に合わせて距離は5cm～数メートルで試してください
最初の1歩が出にくい場合は、リードで引いたり直接押してサポートしてください
- おやつを床に点々と置いたり、ご飯の器を離して置いて歩かせる
※目線でもOKです ニンジンや顔を顔の前に下げた馬のイメージです
- 足を動かさない・動けないわんこは（前足が踏ん張れない）フォームを正してから正常な位置に足をセットします。
車椅子を少し動かし、足を1本ずつ正常な位置に戻します
↑これを何度か行って歩いているような感覚を体感させてください
※頭が下がってしまう場合は顔乗せバーにクッションを乗せてください



動かない

- バックしてしまうわんこは（その場で）立ってキープする練習から始めます
※その場で立つ練習として、車椅子に乗ったままご飯をあげてください
調整が合っていない可能性があります
調整が合っているのにバックしてしまう場合はクッションをタイヤの後ろに置いて、徐々に押さえるものを小さくして自分で踏ん張るコツをつかんでもらいます



◆後ろ脚

- ◆後ろ足は股関節の下（本来の位置）に来るようにしてください
- ◆動きが悪い場合は1歩1歩なおして足の着き方を思い出させます
- ◆引きずる場合は足袋の項目を参照ください

◆その他

- 散歩が嫌いなわんこは家から散歩をスタートではなく、少し離れた場所まで抱っこしてから家に帰るように散歩する
置いていかれる不安から動き出すワンコも多いです
- いつものコース（テリトリー）以外の場所（公園など）で動き出せるこもいます

※ワンコの性格・気持ち・体の状態によって練習ポイントが変わりますのでいろいろ試してみてください

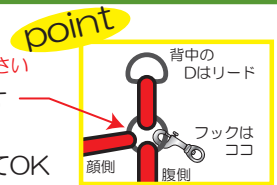
ハーネスとフック_Bの位置

※ 胸が前に倒れるときは前足用レッグリングを使ってください

車椅子のフックをハーネスの横のリング（肩のO部）に留めます

※胸が前に倒れる場合は〈前足用レッグリング〉を使用

ハーネスは体勢を直す、乗り降り使います。フックは止めなくてOK

胸下ベルト_O

胸の上下の調整です

胸下ベルトは前足が地面に対して垂直になるように調整します

- ・前足が前に斜めになったり外側に広がる場合は長いです
- ・調整の高さがわからない時は1本目（短め）2本目（長め）と調整を変えて、1本目のバックルを付けたり外したりして高さの比較してください



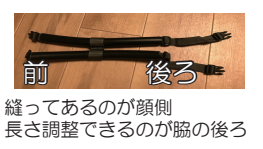
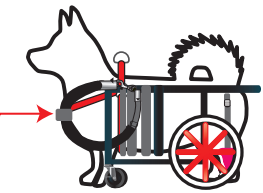
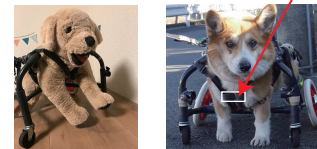
体勢が崩れるときに使う標準オプション

※ 胸が前に倒れなければ使えません
胸を前から支えます

前足のレッグリング_J

- ・中央のグレーのベルトは首が苦しくない程度上に上げてください
※ 中央のベルトがずれる場合はお手持ちの紐で強く結んでください

中央のグレーのベルトはこれ



- ・レッグリングは胸下ベルトの外側に付けてください
（胸下ベルトの上だと体がポコポコします）
※ 使い始めに違和感がある場合前足用レッグリングを伸ばして下さい

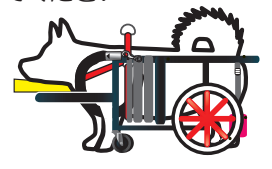
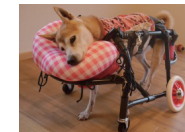
体勢が崩れるときに使う標準オプション

※ 頭が前に落ちなければ使えません

顔乗せバー_Kとクッション

クッションに乗せて胸や頭が下がるのを防ぎます

- ・目が見えにくい場合、顔面衝突防止の為顔乗せバーだけ使用してください
- ・クッション高さが足りない時はお手持ちのクッションや枕を足してください
※頭から背中が平らで伏せているような角度です



顔乗せバーの付け方

- ① 顔乗せジョイントを前に向けてバーを差し込む
- ② ピンは穴に差し込む
- ③ 顔乗せクッションを乗せて完了

背中への補強バー_L

基本おなか側に固定されています
犬のサイズによって背中側で外せる場合もあります



後ろ脚のレッグリング。

腰と後ろ脚の高さ

- 本来の体勢に近く、軽く足の裏や肉球が地面に着く高さにしてください
足が浮くようにすると背中などに負担がかかるので
肛門が真後ろに向くよう調整してください



- 後足を引きずったり動かない場合は、上記の体勢で足を曲げて足袋に入れます
※レッグリングの長さを変えたいときは
バックル側のゴムの中に余っているベルトが入っているので
ゴムを後方にずらして左右の長さをそろえてください

バックルの付け方は

- パイプと体の間から上に出て、下に向かって留めます
(パイプにも体重がかかるようにします)



足袋 (あしふくろ)

足袋はリハビリ効果を高めるためにつけます

足袋の位置と高さ

位置 横から見た時に股関節の下に肉球がくるよう調整します
(本来の体の位置)

高さ 力が入って足袋が伸びている状態で
地面から3cm位浮かせてください ※地面から指2本程度



● 効 果 ●

- 足袋の中で踏ん張ったり
水中歩行のように動かしてくれるので筋力の衰えを防げます
※足の位置・角度が重要です

● タイミング ●

足袋の段階と使い方

足が動く

段階的に
足袋使います

- ナックリングせずに肉球を地面に着けて動かせれば足袋は使わない
- ナックリングはしないが後ろ足の動きが悪いという程度の時は
運動の最初(止まったまま数十秒)足袋に入れるだけでも意識が行きます
歩く時に足袋から下ろすと、しっかり動く時があります
※市販の靴などでも違和感を与えてもOKです

- 軽く引きずってしまう場合
靴を履くか足袋を使ってください
足袋の中で踏ん張ることで筋力の衰えを防ぎます ※足の位置・角度が重要です

足が動かない

- 引きずってしまう場合
足袋を使ってください 力を入れるきっかけになることもあります

ナックリングとは足の戻りが悪く、歩く時足の裏を地面につけず甲を付け擦る状態

- 足袋に入れるのは後ろ脚が使えなくなってからではなく
足に意識をさせるため、筋トレをするためにも使用できます
とはいえ最初慣れない時に後ろ脚もあげてしまうと違和感だらけで
動かなくなってしまうかもしれないのでご注意ください



よくある質問

乗車時間

- どれくらい乗せてもいい?

状態によっても変わりますので飼い主様の判断で乗せてください
車椅子を使い始めの時間は、
前日の運動量を目安にして、慣れてきたら体調を見ながら徐々に運動量を増やします
体力がある犬は、元気に動いていたところと同じくらいまで運動可能です
体力や体調が不安な場合は短い時間で休憩を入れながら数回に分けて乗せてください

胸下ベルトD

- 筋力を出るだけ使いたい

前足はまっすぐ立っている状態(斜めにならない)まで
胸下ベルトを長くすると足へ負荷をかけられます

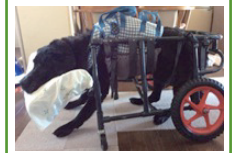
※健康な犬だとベルトは無くても立てます(負荷100%)

※負担をかけすぎると無理がたたって変な場所を痛めるのでご注意ください



- 止まっていると足は斜めになるが、
歩き出すとまっすぐ立てる場合
↑足が斜めになる差を減らして
立っている筋力をアップしてください

✗ 胸下ベルト長すぎ



- 前足が斜めになったり体が斜めになる
正しい姿勢になるようベルトを短くしてください

- 背中が丸くなっている(もともとの骨格の場合も)

3本目の、胸下ベルトを長くしてください
基本は背中が地面に対して水平になるようにしますが
背中が丸い子は3本目のベルトをゆるゆるにして
重力で背中が下がる余裕を作ってください

背中が丸い



- 胸下ベルトでお腹が食い込むのが気になります
ベルトの上にタオルやクッションを置くと食い込みが防げます
※動ける段階でつけると動きにくくなります
※写真はソフトまな板+クッション+カバーで
胸下ベルト3本目はゆるくして、
みぞおちの圧を和らげています



- 体が斜めになったり、上から見ると背骨がまっすぐになりません
高さを合わせても横に倒れこむときはタオルやクッションを挟んでください
体勢をまっすぐにするために、
体と横のバーの間にタオルなど挟んで
真上から見た時背骨がまっすぐになるようにします



- ベルトを少し長めにしていると前輪が持ち上がる
車椅子のバランスがくずれている為
前輪が持ち上がらない程度に
胸下ベルトを締めてください



後ろ足レッグリング

- ・レッグリングに排泄物がついてしまう場合
 - ・レッグリングの中央のグレーのベルトを前の方にずらしてください
※お尻の後ろの空いている部分が広くなります



- ・レッグリングを短くできない場合
黒いゴムにハサミを入れて
切れ目からベルトを出してください
※ベルトは切らないでください
※黒ゴムが短くなれば切り方はこだわりません



- ・股が擦れる場合 ※原因によって対策が変わります

- ・股が前後に動いて擦れる場合
 - ・タイツやスーツの裏地などの滑りやすい素材を2枚以上巻き、生地同士が擦れて股ずれを防ぎます



- ・圧迫が気になる場合
 - ・レッグリングにタオルを巻いてクッション性を増す
 - ・薄いクッションをレッグリングにまたがせてから犬を乗せる
※股が擦れるなどの問題が出る前にやる必要はないです

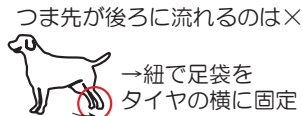
足袋

- ・足が後ろや外に流れてしまいう場合
足袋の下部分に紐を通せるベルトが付いています
先端のベルトに靴ひもや髪留めのゴムなどを通していただき、
足が流れる反対側に紐を結んでください



足袋位置の調整の方法

- ・後ろ脚が後ろにいってしまう
スパーマンのように後ろに足が流れてしまうわんこは
紐などで足袋をタイヤ近くのパイプに巻いて後ろに流れないようにしてください



- ・後ろ足が外側に開いてしまう

足が外に開きタイヤにあたる時は、
足袋の先端に紐を通して反対側のパイプに結びます

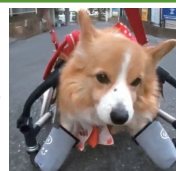


外に広がる
→紐などで
内側に調整



前足を擦ってしまう場合

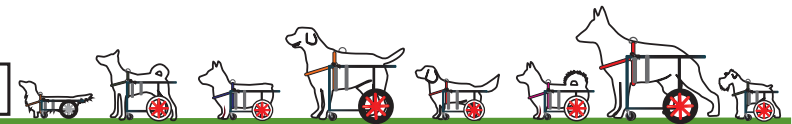
- ・正しい体勢の調整をした後に
市販の靴下を履かせたり
前足用足袋（オプション）をつける
寝たきりで足が動かせなくても
屋外に出かけるのはお勧めです



※足を乗せる台を
つける方もいます



アイデア実例



食事

内臓の位置を起すために車椅子を使ってください
器は背中から耳が同じ高さくらいにしてあげてください
この時、足ではできれば立っている時の状態にしてください
※写真では後ろ足が流れています

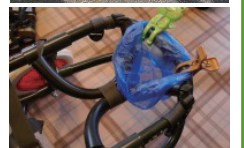


排泄

車椅子でおしっこ・ウンチ両方排泄は可能です
しかし、最初は車椅子で排泄することに違和感を感じます
レッグリングに体重をかけて力を入れることができるので
車椅子なしよりも楽にできることもあります

練習方法

排泄をしたいタイミングや時間や場所で車椅子に乗せて
動いたりにおいを嗅がせて待ちます
最初は抵抗があるかもしれませんが、我慢の限界が来ると
排泄するようになります
最初はかわいそうかもしれませんが排泄トレーニングです
毎回「かわいそう」と車椅子から降りしていると
【車椅子＝排泄してはいけない場所】と思ってしまいます



工夫

お尻の後ろにビニールやバケツをひっかけると、
おしっこ、ウンチがキャッチできます
オスの場合おしっこはおなかの下にペットシートを敷いてください

リード

リードで引いたほうが歩きやすくなってきたら
リードを2本用意して、車椅子のフックの根元に付けてください



くるくる回ったり、暴れる子

おもりなど使って回れるようにする
※三角コーンのおもりや植木鉢のお皿など
足が出る場合は布などで壁を作ってください



介護

- ・体位変換
(完全寝たきりでもおすすめ 車椅子では寝ている時に当たる部分が緩和されます)
- ・シャンプー (ドライヤーはNG)
- ・爪切りなど体のケア (噛む子はカラーなどつけてください)
- ・おむつ交換や、陰部、包皮などでの(包皮)洗浄
- ・カートの手すりにS字フックを付けて引っ掛ける
- ・家での皮下点滴・がっつり点滴

